

—昭和二十年八月—

## 加賀乙彦の「戦争」

## 朗読劇

## 『永遠の都』

第6章「炎都」・第7章「異郷」より

20世紀の日本の歴史のなかで  
もっとも暑かった夏の日、  
何が起こったのか？  
現代の日本文学を代表する作家の一人、  
加賀乙彦の代表作『永遠の都』を通して、  
戦争とは何であったのか、生命とは何か、  
について思索をめぐらす。



## 期間限定オンライン配信

視聴方法は本学HPをご確認ください。

ワールドリベラルアーツセンター

検索

日時 **2020年 8月15日** 土  
13時配信開始 8月31日終了予定

共催 名古屋外国語大学  
ワールドリベラルアーツセンター、  
日本ドストエフスキー協会

対象者 どなたでも視聴できます

出演者 加賀 乙彦、矢代 朝子、山本 芳樹、笠原 浩夫  
亀山 郁夫、沼野 充義

## schedule

Introduction 亀山 郁夫

Message 加賀 乙彦

朗読劇 矢代 朝子、山本 芳樹、笠原 浩夫

鼎談 矢代 朝子、亀山 郁夫、沼野 充義

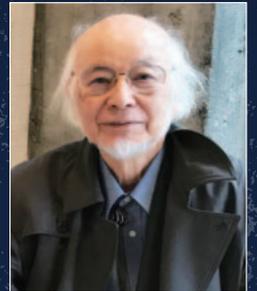
音響協力 小坂 登起

撮影 石黒 洋人 (CLUTCH)、勝部 誠  
トーマス・ケニー

## プロフィール

## 加賀 乙彦 (かが おとひこ)

小説家、精神科医。1929年東京生まれ。東京大学医学部卒業。精神医学および犯罪学研究のためフランス留学。帰国後、1968年「フランドルの冬」で小説家としてデビュー。代表作に「帰らざる夏」(谷崎賞)「宣告」(日本文学賞)「湿原」(大佛次郎賞)、など。近著として「雲の都」(2012年毎日出版文化賞企画特別賞)2016年には、「殉教者」を上梓。また、この春ロシアのケベリオン社より「永遠の都」ロシア語版が刊行された。1998年より、軽井沢高原文庫館長。



## 矢代 朝子 (やしろ あさこ)

文学座を経て、舞台、テレビドラマ、映画、ナレーションなどの俳優活動の他、エッセイ執筆などの文化活動も行う。加賀乙彦館長の要請により、軽井沢高原文庫理事となり、2011年11月、軽井沢演劇部を立ち上げ、文学展開連の朗読劇をスタート。現在は美術館とのコラボなどを含めて、年に数回の文学作品朗読公演を行っている。

## 笠原 浩夫 (かざはら ひろお)

劇団 Studio Life 所属。同じく劇団の代表作で主演、メインロールを務める。和洋、大劇場から企画公演まで外部でも広く活動。また、所属劇団による影絵劇全国小中学校巡回公演にて、語り手等を行っている。軽井沢演劇部には、2018年、福永武彦作品より参加。

## 山本 芳樹 (やまもと よしき)

劇団 Studio Life 所属。劇団の代表作で主演を務める他、翻訳劇、ミュージカル、朗読劇、ダンスパフォーマンス公演など外部公演でも活躍。定期的に音楽Liveも行い、自身が作詞、作曲を手掛けオリジナルCDアルバムをリリースするなど活躍は多岐にわたる。軽井沢演劇部には、結成時より参加。

## 亀山 郁夫 (かめやま いくお)

名古屋外国語大学学長  
ワールドリベラルアーツセンター長

## 沼野 充義 (ぬまの みつよし)

名古屋外国語大学副学長  
世界教養学部 教授、教養教育推進センター長

## 注意

本イベントは、動画配信のみで行われます。当日は大学でのイベントの聴講はできませんので、ご了承くださいませようお願いします。

問合せ先

名古屋外国語大学  
ワールドリベラルアーツセンター

Tel: 0561-75-2164 (直通)  
mail: wlac\_gg@nufs.ac.jp



公開した動画の複製や再配布はご遠慮いただきますよう、  
お願い申し上げます。



Facebook